

次回で最終となります。次回は会場が労働会館です。講義終了後、zoom、会場受講者合同交流会を予定しております。やく一時間の予定です。この間の受講の感想、なんでも結構です。難しかったことや面白かったこと、心に残ること、情勢の感想などをざっくばらんにお話しください。ぜひ予定に入れておいてください。

ワンポイント

① 中国人と決めつけ「你好」、「私は中国人ではない！」このやりとりどう見るか？

『黒人も白人と同じ人間、黒人への社会差別も結婚により黒人の色が次第に薄くなっていけば偏見はなくなる』と述べたところで、それこそまさに偏見だと追求される。・・・私たちは偏見のかたまりだ。真理は偏見をはぎ取り、私たちを个性的かつ自由にする。同時に人々を結びつける。」「真理はわれらを自由にする」(『教育とは何かを問い続けて』太田堯)

② AI とちがって「人間とは、問いと問いとの間に間を必要とする動物だ。刺激に対してどれが有効かを選んで反応する。言語で想像力をはばたかせることができるからだ。」(同上、著書)

③ 「法の支配の危機」一撃で解決する手段はない—これでは、問題提起はよし、解決策は無し。市民社会が法の下でむしばまれていく。ポピュリズムの台頭。ポピュリズムとは何か？

トランプ米大統領に見るように、「真の国民の声を反映する」と訴えて支持を獲得し、「選挙で選ばれた以上何をしてもよい」という「多数派による正当性」の論理を駆使し、民主主義を侵食する(表現の自由、基本的人権の掘り崩しなど)。根底にあるのは社会的不平等と経済的格差だ。この診断は正しい。しかし、「法の順守を続けていく」では解決できない。経済的格差を近代資本主義の搾取による格差と分析し、経済的な土台を作り替えていくという方法が必要だ。このための『資本論』学習だ。

第3篇 第20章

*大まかにポイントをしっかりと押さえましょう。

①近代資本主義市場経済の分析である。古典派は資本主義が旭日の勢いの時で、社会の病気診断の必要がなかった。産業革命後のマルクスの時代はそうではない。「資本主義経済の入り口のケネー、出口のマルクス。」(ローザ・ルクセンブルグ)

② 社会の解剖図、それが再生産論。

③ 必需品と奢侈品。これこそ、労働者階級と資本家階級、二大階級の物質的生存基盤。

④ スミスの「資本—収入」を克服したマルクスの対抗、「可変資本と労賃のからみ合い」を示す。

⑤ 固定資本の補填。この理論的認識が弱いと社会インフラが手薄になる。(道路陥没事故)

第1節 問題の提起

・考察対象は年間の総生産物

- ・商品資本循環をひな型にする。 $W' - G - W \cdots P \cdots W'$ 剰余価値を含んだ W' で開始するから剰余価値の消費が追求される。他の資本循環ではうまくいかない。これはマルクスの手柄。
- ・価値補填と素材補填の観点で考察。使用価値の違いが問題となる。それは、不変、可変、固定、流動、貨幣、商品資本というさまざまな規定の資本の現状復帰を含んでいる。

第2節 社会的生産の二大部門

年間総生産物を素材観点で分割【Ⅰ. 生産手段 Ⅱ. 消費手段】。価値構成は【 $c+v+m$ 】個別商品分析とリンク。

単純再生産の表式

$$\text{Ⅰ. } 4000c + \boxed{1000v + 1000m} = 6000$$

$$\text{Ⅱ. } \boxed{2000c} + 500v + 500m = 2000$$

表式における変換の三支点

- (1) Ⅱ $500v + 500m$ (自己補填) (2) Ⅱ $1000v + 1000m$ 対 Ⅱ $2000c$ (相互補填)
- (3) Ⅰ. $4000c$ (自己補填)

第3節 両大部門間の転換—Ⅰ($v+m$)対Ⅱ c

- ・この相互転換は貨幣流通によって成立。貨幣の媒介は理解を困難にもするが、決定的に重要(最終第8草稿の新観点)。可変資本は、どの部門でも貨幣形態で前貸しされなければならない。
- ・Ⅰ資本の $1000v \rightarrow$ 労働者の賃金 1000 これでⅡ資本 $\underline{2000c}$ の半分を買う。

Ⅰ資本家の $1000m$ で、Ⅱ資本の $\underline{2000c}$ の半分を買う。Ⅱ資本家は手にした貨幣でⅠ c から生産手段を買う。資本家たちが商品流通のために前貸しする貨幣はとりひき後、資本家に還流する。貨幣の出発点への還流はとりひき完了のしるし。

- ・単純再生産の条件は、 $\text{Ⅰ}(v+m) = \text{Ⅱ}c$ 資本主義では均衡は偶然である。(恐慌の可能性へ)

第4節 部門Ⅱの中での取引 必需品と奢侈品

- ① 消費手段(部門Ⅱ)を労働者と資本家の消費に対応した亜部門に分ける。

必需品部門 Ⅱa、奢侈品部門 Ⅱb — 4:1 にする。

- ② 資本家の 必需品消費 : 奢侈品消費 — 3:2 にする。

■Ⅱ部門内 取引

$$(3/5)240 + (2/5)160 = \underline{400} \quad (3/5)60 + (2/5)40 = \underline{100}$$

必Ⅱa $400v + \underline{400m} = 800 \cdots$ 自分の作った必需品を労働者と資本家で消費し補填。

奢Ⅱb $100v + \underline{100m} = 200 \cdots$ 自分の作った奢侈品 200 を資本家が消費し補填。

■Ⅰ・Ⅱ部門間 取引 上の必需と奢侈の条件①②を $\text{Ⅰ}(v+m) = \text{Ⅱ}c$ に当てはめる

$$(3/5)800m = \underline{480m} \quad (2/5)800m = \underline{320m}$$

・Ⅰa 必需品生産手段 $800v + \underline{480m} + \underline{320m} \rightarrow [800v + 800m]$

Ⅰb 奢侈品生産手段 $200v + 120m + 80m \rightarrow [200v + 200m]$

Ⅰa $[800v + 800m]$ + Ⅰb $[200v + 200m]$ と Ⅱc 2000 が 部門間相互取引。

- ◎Ⅱbに従事する労働者の再生産は、資本家階級の奢侈浪費を条件とする。この非情！

恐慌期におけるⅡbvへの直撃。そしてその波及。Ⅱb労働者の階級意識にも影響する。